社外取締役インタビュー

interview

モノづくりの視点で磨く ガバナンスと価値創造

社外取締役 監査等委員 原 邦彦

Q. 当社のガバナンスや経営監督において重視している点を教えてください。

社外取締役として私が最も重視しているのは、オーエスジーが「経営の健全性と透明性」を確実に維持することです。正確な情報開示と課題の共有は企業価値の根幹であり、信頼を失えば経営リスクは一気に高まります。例えば各国からの報告を聞く際は、論理の飛躍がないか、世間で言っていることとずれてはいないか、エビデンスは本当にあるのかなど、非常に注意しています。
また、社員が自発的に挑戦できる組織であるかも見ています。経営陣が明確な中長期戦略と企業としての“夢”を示し、全員が同じ方向を向ける状態をつくる必要があります。方向性が明確であれば、人は前向きに動き、企業の競争力は自然と高まります。
オーエスジーは世界的に強い技術基盤を持つ企業です。その潜在力を未来につなげるため、私は社外取締役として冷静な視点でガバナンスを果たしつつ、責任を持って見守り、助言していきます。

Q. 当社の強みである技術面について、長年モノづくりに携わってこられた経験から、どのような点を評価されていますか。

GREEN TAPが2025年“超”モノづくり部品大賞を受賞しましたが、その背景には課題設定の質の高さがあります。技術開発において最も重要なのは、“なぜこの課題が起きているのか”を徹底的に考え抜く姿勢です。技術を使う前に課題の本質を見極めることが、正しい判断につながります。
GREEN TAPの開発では、長年蓄積してきた加工技術に、数値流体力学（CFD）を用いた高度な解析を組み合わせた点に大きな特徴があります。冷却油の流れや熱の発生箇所を可視化することで、既存技術の限界を突破する道筋を見出したことは高く評価しています。
現場で問いを繰り返し、条件を変えながら最適解を探る。このプロセスがしっかり機能している企業は、既存技術の延長線にとどまらず、新しい生産技術や設計思想を自ら生み出す力を持っています。オーエスジーの取り組みは、その力が確かに備わっていることを示しており、こうした姿勢が、将来の競争力の源泉になります。

Q. 人財育成や挑戦を促す環境づくりについて、どのように見ていますか。

オーエスジーの強みは、社員が早い段階から自分の役割や貢献領域を理解し、迷わず挑戦できる環境にあります。これは、企業としての方向性が明確であることの表れです。
挑戦には“必然性”が不可欠です。“必要だから取り組む”という目的意識があれば、高い目標でも前向きに挑めます。また、「知らない」と率直に言える環境が、人の成長には欠かせません。周囲に助けを求め、現場で学び続ける姿勢が、成長を促すうえで非常に重要です。
さらに、オーエスジーに根付くKAIZENの文化は、単なる小改善ではなく、現場の無駄・無理・ムラを見抜く力を磨く営みです。地道な改善の積み重ねが課題の本質を捉える力を育て、それがやがて大きな変革の出発点になります。こうした文化が、挑戦を後押しする組織の土台になっています。

Q. 最後にステークホルダーへメッセージをお願いします。

オーエスジーは、技術力と人財力の両面で大きな可能性を持つ企業です。これらの強みをいかに持続的な成長につなげていくかが、これからの経営において重要なテーマになると考えています。そのためには、現場で培われてきた力を確かな戦略と結びつけ、組織全体として価値創造に向けて動ける状態をつくることが欠かせません。私は社外取締役として、取締役会での議論を通じて、こうした取り組みがより実効性を持つよう、引き続き建設的な視点で関わっていきます。

interview

環境対応を 企業価値向上へつなげる

社外取締役 監査等委員 林 良嗣

Q. 脱炭素・環境規制が進んでいますが、当社の課題は何ですか?

社外取締役として私が最も重視しているのは、環境対応を事業単位の取り組みではなく、経営判断の根幹に関わるテーマとして扱うことです。世界的に規制が高度化する中、オーエスジーのようなモノづくり企業は、原材料調達から物流・製造・廃棄まで、ライフサイクル全体の環境負荷を継続的に把握できる基盤づくりが欠かせません。また、各国の規制や市場環境は急変するため、海外拠点から一次情報を収集する仕組みをルール化することも極めて重要です。オーエスジーには一貫した設計・製造力と広いグローバルネットワークという強みがありますが、それをデータと仕組みに落とし込む体制整備は道半ばです。取締役会としては、情報の質と網羅性を継続的に監督し、環境負荷低減と企業価値向上の両立を支えていきたいと考えています。

Q. GREEN TAPは“超”モノづくり部品大賞や省エネ大賞を受賞しました。さらに環境への取り組みを進めるためにはどのような活動が必要だとお考えですか?

GREEN TAPは、オーエスジーの環境戦略を象徴する取り組みです。加工工程でのエネルギー消費やCO_2排出を明確に減らせる点は、外部からの高い評価につながっています。今後は、工具寿命や不良率改善など、導入前後の効果を定量的に整理し、顧客便益も含めた価値として積極的に発信していくことが必要です。開発ポートフォリオを環境指標と連動させ、第三者検証など信頼性確保の仕組みを整えることも、取締役会の役割です。

Q. 環境対応を一過性ではなく、継続的な価値創造につなげるために何が必要だと思われますか?

環境対応をコストではなく価値に変えるには、環境効率（売上÷環境負荷）のような「質」を示す指標が有効です。市場へのアクセスや顧客の生産性向上など、環境施策がもたらすプラス効果を視える化することで、経営全体の意思決定に組み込みやすくなります。取締役会は、中長期の価値創造とのつながりを意識し、環境と事業のKPIの一体運用を監督することが求められます。

Q. 最後にステークホルダーへメッセージをお願いします。

オーエスジーは創業以来、「地球会社」という理念のもと、環境負荷の低減と品質向上の両立を追求してきました。今日の企業経営においては、環境対応に加え、社員や顧客、地域社会が安全・安心を確保し、持続的に活力ある生活や就業環境を享受できる状態を実現することが重要性を増しています。こうした、生活の質や働く環境の総体的向上を指す概念が、近年注目される“ウェルビーイング”であり、オーエスジーの事業活動はその実現にも寄与し得るものです。
社員の皆さんが日々取り組むデータ整備やKAIZENは、競争力を強化するとともに、社会に提供する価値の基盤を成すものです。ステークホルダーの皆様には、引き続き、透明性の高い情報開示と確かな技術力を通じて応えてまいります。当社は今後も、環境への責任と社会の生活・業務環境の向上を同時に追求する企業として、持続的な価値創造に取り組んでいきます。